

アクティブ・ラーニング 授業実践部会の開催にあたって

寺嶋浩介
(大阪教育大学)

<http://www.tera-lab.net/>

この講座の大きなねらい

- アクティブ・ラーニング(AL)の授業づくりを通して、その重要なポイントを明確化することができる
 - ALの特徴がわかる
 - ALの授業づくりや実施のポイントがわかる
- 上の視点をもとに、教員向けの研修等をデザイン、実施することができる
 - 研修のデザイン・実施技法を習得できる
 - 普及できる
- 尼崎ALにおける重要課題プロジェクトチームの編成とし、ハンドブックとしてまとめる

互いに学び、広げよう

- みんなが参考となる地に足ついた取り組みをし、互いから学び合おう
- 教科を越えた「中学校の日常授業改善」をしよう
- 次期学習指導要領を見据えよう
– ICT活用, 深い学び
- 成果を市内の先生方へ還元し、広げよう
- まずは、自分たちがアクティブにやり、楽しもう



これまでの
取り組み



講師紹介

- 寺嶋浩介(大阪教育大学)
 - 授業や研修の設計
 - ICT活用

- 泰山裕(鳴門教育大学)
 - 思考スキルの育成



学びの場.com より

この講座で行っていくこと

1. AL授業の開発と交流
(これまでのものを積み上げる)
2. プロジェクトチームでの活動
 1. ICT活用
 2. 深い学び
 3. 研修普及チーム
3. 公開報告会

今日行うこと

- アクティブラーニングのポイント(寺嶋)
 - 学習として, 情報を整理し, 発信することが必要
- 自己紹介
- 先行事例から学ぼう
- 次回までの課題

アクティブ・ラーニング概論

寺嶋浩介

(大阪教育大学)

<http://www.tera-lab.net/>

- 01 アクティブラーニングの意義やねらいについて説明できる
- 02 アクティブラーニングの方法について説明できる
- 03 アクティブラーニングの授業づくりの方法を説明できる
- 04 アクティブラーニングの授業において、生徒につけたい力を説明できる
- 05 アクティブラーニングのねらいを踏まえて、生徒に学習課題を提示できる
- 06 アクティブラーニングに必要な教材を準備することができる
- 07 アクティブラーニングにおける生徒の思考を予測できる
- 08 アクティブラーニングでの生徒主体の学習形態において、
- 適切な指導や助言ができる
- 09 アクティブラーニングの授業において振り返りの場を設け、
- 充実させることができる
- 10 単元のつながりを意識したアクティブラーニングの授業づくりができる
- 11 教科間のつながりを意識したアクティブラーニングの授業づくりができる

9

アクティブ・ラーニングに関する議論

教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的な能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)
(平成24年8月28日)用語集より

「アクティブ・ラーニングとは、学生にある物事を行わせ、行っている物事について考えさせること」

邦訳は、松下佳代(京都大学高等教育研究開発推進センター教授)編著『ディープ・アクティブラーニング 大学授業を深化させるために』序章より
Active Learning: Creating Excitement in the Classroom (Bonwell & Eison, 1991)

(アクティブ・ラーニングの一般的特徴として挙げられる点)

- (a) 学生は、授業を聴く以上の関わりをしていること
- (b) 情報の伝達より学生のスキルの育成に重きが置かれていること
- (c) 学生は高次の思考(分析、総合、評価)に関わっていること
- (d) 学生は活動(例:読む、議論する、書く)に関与していること
- (e) 学生が自分自身の態度や価値観を探究することに重きが置かれていること
- (f) 認知プロセスの外化※を伴うこと
※問題解決のために知識を使ったり、人に話したり書いたり発表したりすること

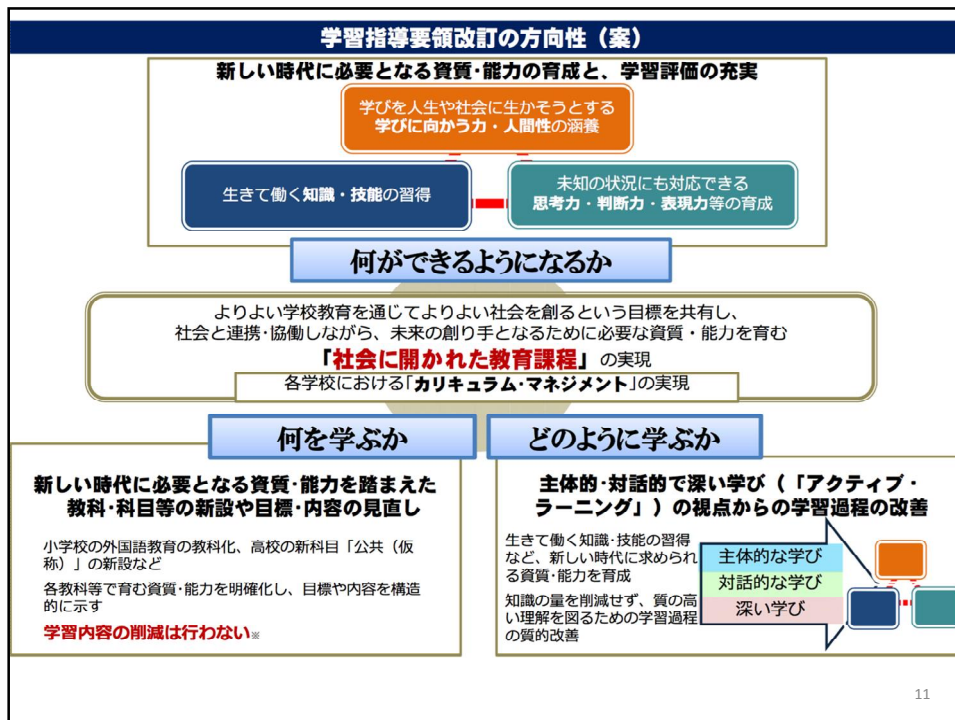
(参考) 指導における「双子の過ち」
「網羅に焦点を合わせた指導」
「活動に焦点を合わせた指導」

松下佳代(京都大学高等教育研究開発推進センター教授)編著『ディープ・アクティブラーニング 大学授業を深化させるために』序章より
アクティブ・ラーニングの一般的特徴は「Active Learning: Creating Excitement in the Classroom (Bonwell & Eison, 1991)に基づき著者が再構成
「双子の過ち」は「Understanding by design」(Wiggins & McTighe, 2005)より

189

教育課程企画特別部会における論点整理について(報告)

補足資料より



ALの学習過程の3要素 （特定の型にこだわらない）

- ① 学ぶ意味と自分の人生や社会の在り方を主体的に結びつけていく「主体的な学び」
- ② 多様な人との対話や先人の考え方(書物等)で考えを広げる「対話的な学び」
- ③ 各教科等で習得した知識や考え方を活用した「見方・考え方を働かせて、学習対象と深く関わり、問題を発見・解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想・創造したりする
「深い学び」

深い学び

- (各教科の)「見方や考え方」を、習得・活用・探究を見通した学習過程の中で働かせながら思考・判断・表現し、「見方や考え方」を更に成長させながら、資質・能力を獲得していくこと

アクティブ・ラーニングの視点と資質・能力の育成との関係について -特に「深い学び」を実現する観点から-
平成28年3月14日 文部科学省

ALを意識する価値

- 第一段階は、生徒自らが少しでも楽しく、学べるように工夫すること
- 第二段階は、生徒が納得でき、必要性がある形で、知識・技能を習得していくこと
- 第三段階は、生徒が得られた知識や技能を活用する場面を取り入れていくこと
- 第四段階は、単元間の連携や教科を越えた能力やスキル獲得を視野に入れていくこと

- 01 アクティブラーニングの意義やねらいについて説明できる
- 02 アクティブラーニングの方法について説明できる
- 03 アクティブラーニングの授業づくりの方法を説明できる
- 04 アクティブラーニングの授業において、生徒につけたい力を説明できる
- 05 アクティブラーニングのねらいを踏まえて、生徒に学習課題を提示できる
- 06 アクティブラーニングに必要な教材を準備することができる
- 07 アクティブラーニングにおける生徒の思考を予測できる
- 08 アクティブラーニングでの生徒主体の学習形態において、
適切な指導や助言ができる
- 09 アクティブラーニングの授業において振り返りの場を設け、
充実させることができる
- 10 単元のつながりを意識したアクティブラーニングの授業づくりができる
- 11 教科間のつながりを意識したアクティブラーニングの授業づくりができる

15

ALの設計での留意点

- 生徒が動機づけられる「課題」を設定する
- 子どもが主体的・協働的に
取り組むことの意義を明確にする
- 子どもが情報に出会い、整理・思考し、発信する
- 振り返らせる

子どもが動機づけられる「課題」

- 面白そうな課題か？ 主
- 自分に関係がありそうな課題か？ 主
- やってみれば、何とかできそうな課題か？ 主, 協
- 解決したら、達成感が得られそうな課題か？ 主, 協

子どもが行う  教師が設定する

主体的・協働的に 取り組むことの意義を明確にする

- 結果・成果物にメリットがある場合
 - $0.5+0.5=1$ (例.ジグソー学習)
 - $1+1=3$ (新しい価値の創造)
- プロセスにメリットがある場合
 - 他の人を見て、「なるほど、こうすればいいんだ」と考え、次に活かすことができる(スキル)
 - 他の人と一緒に取り組んで、達成感がある(情意面)
 - 他の人にはない自分の良さの発見(情意面)

子どもが情報に出会い、 整理・思考し、発信する場面づくり

- 子どもが情報に出会う
 - 必要な情報を用意する
 - 子どもの実態に応じて、広げたり、絞ったりする
- 子どもが情報を整理し、思考する
 - シンキングツールの活用
- 子どもが発信する
 - ICTやまなボードの活用
 - すぐ書ける、みんなで情報を共有しやすい

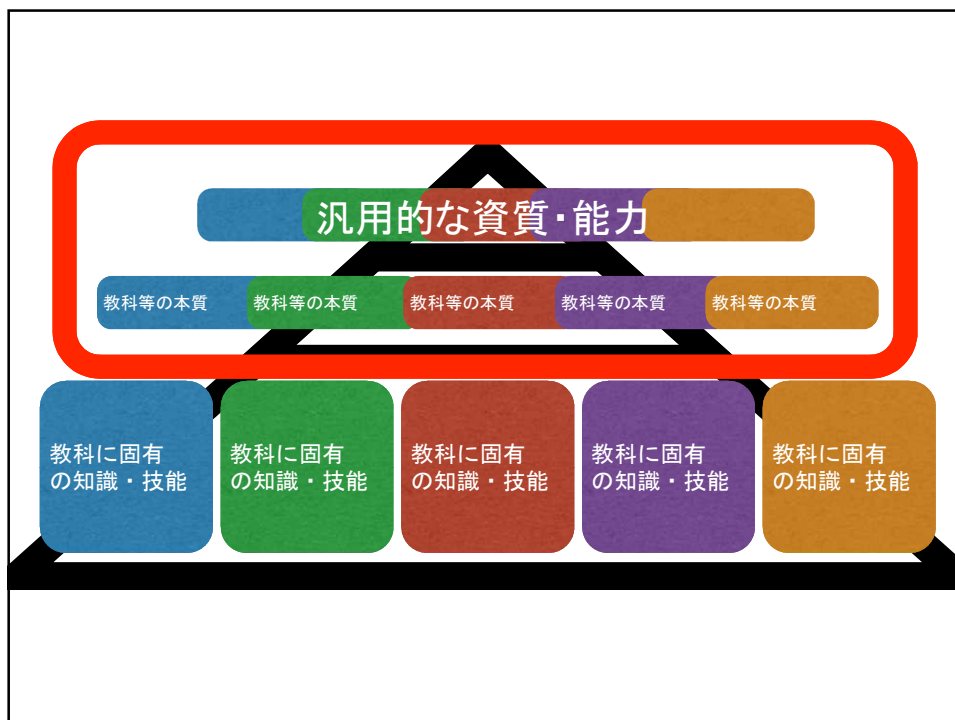
振り返らせる

- 自分たちがどう考えて、問題解決に至った（至らなかった）のか
- （至った場合）
何が効果的に機能し、問題を解決できたのか
- （至らなかった場合）
知識のなさが問題なのか、
解決方法に問題があったのか

教師にとって、授業づくりに対する評価にもなる

- 01 アクティブラーニングの意義やねらいについて説明できる
- 02 アクティブラーニングの方法について説明できる
- 03 アクティブラーニングの授業づくりの方法を説明できる
- 04 アクティブラーニングの授業において、生徒につけたい力を説明できる
- 05 アクティブラーニングのねらいを踏まえて、生徒に学習課題を提示できる
- 06 アクティブラーニングに必要な教材を準備することができる
- 07 アクティブラーニングにおける生徒の思考を予測できる
- 08 アクティブラーニングでの生徒主体の学習形態において、
適切な指導や助言ができる
- 09 アクティブラーニングの授業において振り返りの場を設け、
充実させることができる
- 10 単元のつながりを意識したアクティブラーニングの授業づくりができる
- 11 教科間のつながりを意識したアクティブラーニングの授業づくりができる

21



自己紹介で行うこと

- 各2分で、自身の学校の学力向上における課題を説明してみましょう
 - 複数校に共通して言えそうなもの、特定のところの課題であがっているものをわけて整理してみましょう
- AL部会でどのような授業実践等が役に立ちそうかを考えてみましょう

課題(AL通信1号)について

- 冒頭に「我が校の学力向上における課題」を3行程度で簡単に書く
- 期間中に実施したALの「ベスト2」をまとめる
- 2つの実践について、以下の項目を最低限盛り込む
 - 教科、指導略案、使用した教材、ALのポイント、生徒の反応
- 形式は自由
(ですが他の人が読むことを意識して・・・)
- ✕切を8月3日(金)センターへメール送付とする